

段

六年 筆順 9
段

成り立ち



崖に「段々」を刻みつけた形を表した「段」と、「役(年424、仕事)」の意味を表した「段」とを組み合わせて作った字です。

「崖を登りやすくするために、崖に「段々」を刻みつける「仕事」を表した字です。「段々」の意味に使います。【例】石段、階段、段々。

段は「順序よく並んでいる」ので、「順序」の意味にも使います。【例】段階、段級、段位。

段は「一段ごとに区切られている」ので、「区切り」の意味にも使います。【例】段落、分段。

段は「崖を登りやすくする良い方法」なので、「物事をするのに良い「方法」」の意味にも使います。【例】手段、算段。

使い方

▽ぼくは散歩をする時に、近くの神社に行くことがあります。神社にのぼって行く石段はゆるやかで、老人でも楽にのぼれるようになっていきます。実際、段々をのぼりおわった所で、おじいさんが一息いれて、おやしろをおがむ姿を、よく見かけます。

▽文章を読む時に、いくつかの段落に分けて、段落ごとの意味を考えながら読むとよいでしょう。そうすれば、その文章の構成がよくわかります。

熟語例

- ▽石段 (石でできた階段)
- ▽階段 (違う階へ行き来するための段々)
- ▽段階 (物事が上の方や先の方に進んで行く順序。「段階」を追って勉強をして行くうちに、内容がよくわかって来た」などというふうには、つかいません。)
- ▽段位 (いくつかの等級に分けた位)
- ▽段落 (文章や物事の一くぎり。「仕事が一段落ついたから、休憩しよう」などというふうには、つかいません。)
- ▽分段 (区切り)
- ▽算段 (何とか方法を考えて間に合わせること。)

暖

六年 筆順 13
暖

成り立ち



「手で持っている物(爰)に手(日)を出して「引っぱる」ことを表した「爰」と、「日」とを組み合わせて作った字です。

「日の光を家の中に「引き入れ」て、家の中を「あたためる」ことを表した字です。「あたためる」ことを表した字であり、「あたたまる」こと、「あたたかい」という意味を表した字です。

「爰」を旁にした字には「緩」や「援」がある。「緩」は、「糸を引っぱり」糸の張りを「緩める」ことを表した字。【例】緩和、弛緩、緩衝地帯。

「援」は、「手を引っぱり」人を「助けてやる」ことを表した字である。【例】救援、支援

使い方

- ▽同じ家でも、南向きのへやと北向きのへやとでは、気温がかなりちがいます。冬は、暖かい南向きのへやが良く、夏は、涼しい北向きのへやが良いです。
- ▽海流には、暖かい暖流と、冷たい寒流とあります。同じ緯度の土地でも、暖流が寒流により気温に、寒暖のちがいがあります。

熟語例

- ▽暖流 (赤道の方から温帯に向かって移動する海流で、水温が暖かいので暖流と言います。)
- ▽寒暖 (寒さと暖かさ。寒いのと暖かいのと。)
- ▽暖気 (暖かい空気。また、暖かい気候)
- ▽暖冬 (暖かい冬。例年に比べて、冬が暖かい時に言います。【例】暖冬で冬着の売れ行きが悪い。)
- ▽春暖 (春の暖かさ。春になって暖かいこと。また、暖かい春のこと。)
- ▽暖房 (房は「へや」、へやを暖めること。また、へやを暖める装置のこと。)
- ▽暖色 (見る人に暖かい感じを与える色のこと。赤や黄色の系統の色)